

(12) 靠損 損をする。

(13) 告して施行を乞う、とあり 注(1)の告称の終り。

(14) 免行 行いのをやめる。

(15) 胡椒 中国では十三世紀前半より胡椒の大輸入期が始まり、十五世紀末に中国の胡椒輸入量はヨーロッパを凌駕していたらしい。この時期の東南アジア及びインドの胡椒の栽培についての詳細な研究は山田憲太郎『南海香葉譜 スパイス・ルートの研究』(一九八二年、法政大学出版局、二八二—三〇九頁)である。同じく十五世紀における中国の胡椒の大消費について指摘し、東南アジアにおける胡椒の栽培と集散地について述べているのは Reid, Anthony. 1993. *Southeast Asia in the Age of Commerce 1450—1630. Volume Two: Expansion and Crisis*. Yale Univ. Press. New Haven & London, pp. 2-13.

また、十六世紀初めごろの各地の胡椒の特徴や、交易をよく叙述して参考になる史料はトメ・ピレス『東方諸国記』の記事である(一八二、二一九、二四一、二六九、二九九頁ほか)。琉球の東南アジアに対する派船は、すべて胡椒の集荷地または輸出中継地であり、とくに琉球船がしばしば往復したアユタヤとマラッカはマライ半島、スマトラ北部、ジャワ、及び胡椒の原産地といわれるインドのマラバル地方の荷も集めた中心地であった。

(16) 収号 受取りのしるし。しかしここでは収買、収購(買い付ける)の意か。

(17) 硫黄三千斤小 二千五百斤正と報ず 運送中の硫黄の目減り

をみこんだ表現。

(18) 大青盤二十個： 青磁の大皿。琉球船が運んだ中国産の青磁については、国吉菜津子「琉球における陶磁貿易の一考察」(『南島史学』第三十八号 一九九一年)を参照。

#### 1-40-02

琉球国中山王より暹羅国あて、浮那姑是等を遣わして速やかな交易を請う咨(一四二五、□、□)

琉球国中山王、進貢の事の為にす。

切に照らすに、本国は貢物稀少なり。此の為に今、正使浮那姑是等を遣わし、仁字号海船に坐駕し、磁器を装載して貴国の出産の地面に前往し、胡椒・蘇木等の貨を収買せしむ。回国して以て大明の御前に進貢するに備う。仍お禮物を備え詣前して奉献し、少しく遠意を伸ぶ。幸希わくは収納せんことを。仍お煩わくは、今、差去する人員の、早きに及んで打発し風迅に赶趁して回国するを聴さんことを。四海一家、永く盟好を通ぜしむるに庶からん。今、奉献の礼物の数目を将て後に開坐す。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

織金段五匹 素段二十四

腰刀五柄 摺紙扇三十柄

硫黄三千斤 今二千五百斤正と報ず

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

洪熙元年（一四二五） 月 日

咨

1-40-03

琉球国中山王より暹羅国あて、南者結制等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四二六、九、一〇）

琉球国中山王、酬謝の事の為にす。

近ごろ暹羅国の咨文二道を准くるに各々開す。本国の咨に、正使阿勃馬結制、並びに浮那姑是等を差わし、海船二隻に坐駕し、礼物を齎送して国に到り、及び番貨を収買して回国し用に備う、とあり。施行するを除く外、就ち回奉の礼物を順帶せしむるを蒙る、とあり。移咨して本国内に到る。

此に参迦するに上年より今に至るまで珍賂を回惠せらる。已に明らかに照数して収め訖るを除く外、今思うに、前後の恩、未だ謝を伸ぶるに由なくして、深く慚愧を負う。今、特に正使南者結

制等を遣わし、義字号海船一隻に坐駕し、貴国に前詣して奉獻せしめ、少しく酬謝の誠を伸ぶ。煩わくは四海一家を以て念と為さんことを。容納すれば万幸なり。更に煩わくは、今去く人員は胡椒・蘇木等の貨を収買し、回国して以て中国に進貢するに備うれば、早やかに打発を為さんことを。落葉として風迅に趁りて回還すれば便益ならん。今、酬謝の礼物の数目を明らかにして開坐し移咨す。施行せよ。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

織金段五匹 素段二十四

硫黄三千斤 今二千五百斤正と報ず

腰刀五柄 摺紙扇三十柄

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

洪熙二年（一四二六）九月初十日

咨

注（1）咨文二道 その内容は、以下の「本国の咨に…」より注（3）まで。

（2）本国の咨 琉球より暹羅国に送った咨で、「正使…」より「用に備う、とあり」まで。

（3）順帶せしむるを蒙る、とあり 注（1）の終り。なお、ここ